

第5回石狩市地域自治システム検討会議会議録

【日時】 平成25年12月20日(金) 10:00～

【場所】 石狩商工会議所 3階大ホール

【出席者】 竹口委員、池田委員、酒井委員、中島委員、貝田委員、嶋田委員、遠藤委員、
米倉委員、阿部委員、北原委員、廣長委員、高野委員、上ヶ嶋委員
(事務局 森本・山田・清水、畠中、門井)

【欠席者】 羽田委員

【オブザーバー】 佐藤教授、加藤部長

【会議内容】

■次第1 開会

■次第2 議事

① グループ討議

～ 事務局から、資料5及び別紙(イメージ案)の説明 ～

～ グループ討議・発表 ～

■グループ発表(B班)

≪高野課長≫

地域会議を組織するに当たり、既存の団体が集まることのメリットをそれぞれの団体が自ら問いかけ、理解し共有する必要があるということが出されました。いろいろな課題に対し、将来的に解決ができるかどうかを共通意識とすることは必要です。組織構成については、何をやるかで必要とされる専門的知識が異なるため、「有識者」と一口に言っても、どういう人を対象にするのが難しい。活動内容に応じて必要な人材に協力を求める方が良いのではないかと。公募委員については、具体的に募集の仕方などが課題となる。旗振り役は町内会しかないのではないかと。構成員に縛りをかけるとスタートできない可能性もある。このような組織で意思決定を行い、事業を行うことは、地域から理解を得やすいなどの意見が出されました。地域割と設立については、組織規模に縛りをかけない方がいい。連町を基本とするが、地域事情にも配慮が必要。テーマごとに部会を作ることもあるだろうなどの意見でした。

今回の結論としては、構成員や組織規模にはあまり規制をかけない方がいい。実施に当たっては、地域の理解と市の協力体制が必要であるという内容になると思います。今後については、基本的に各団体を集めて地域説明会を行ってほしいという意見がありました。設立に当たり、規約のモデル(雛型)が必要となる。地域の活動の際に、身分書などを携帯した方が、住民の信頼はもちろん活動しやすくなるという意見がありました。

■グループ発表（A班）

《門井主任》

A班では、主に地域割について話し合いました。花川南のように大きな連町は分けるなどして、ある程度顔ぶれが分かる程度が良いとの意見が出ました。また、既に各種団体による複数の地域割が存在しているので、エリアを先に決めるよりは、何をしたいのか、事業の中身でそれに必要なエリアを決めたほうが良い、柔軟に対応すべき、との意見です。

ただし、町内会と全く同じエリア分けにすると、単なる屋上屋になってしまう、またエリアが離れすぎると参加できない人が出てくるので、注意すべきだと思います。

それから、世帯数減により班すら維持できないような町内会が存在しているのも事実で、地域会議を設置しても、そこに出てくることすらできない地区があることも懸念されます。しかし、そもそもこの地域会議の目的はそこにあり、課題を抱えている地区が繋がり合い、支え合う仕組みの構築を図ることだと思います。また地域会議により、裾野が広がり、住民の巻き込みを図りたいという意見もありました。

また、コーディネーターのあり方についてですが、コーディネーター＝活動拠点整備のことなのか、事務をやる人をイメージするのかわかりませんが、最初からコーディネーターありきではなく、実情に応じて置くべきではないかと思えます。またコーディネートは地域が主体的に行うべきであり、行政から支援してもらい、というスタンスでは上手くいかない、という意見が出ました。

いずれにしろ、エリアが抱える地域課題に柔軟に対応できるスキームがこの地域会議には必要なのだろうという意見です。

《アドバイザー 佐藤教授》

いろいろなご意見が出ておりましたが、財政環境が豊かな時は、市役所が色々なことが実施できましたが、その財政環境が厳しくなっております。問題は、財政難より市民の皆さんの意見の多様化が進んできており、市役所に色々な事をやってほしいという意見が出ておりますが、残念ながら解決できないことが多い、これが現在の問題です。

社会的に貧しい国では一つにまとまりますが、豊かな所ではまとまりづらい。この問題をいかにまとめて解決するのが今回のポイントです。

地域にまとまりがないのは、お金の問題ではなく、地域住民の結束力の低下はもとより、町内会の弱体化が原因です。町内会の会長も頑張っておりますが、問題をなかなか解決できずにいます。町内会はその地域をカバーしていけるような力をつけた方が良いと思われませんがこの問題を解決できずにいるのが現状です。ある程度、まとまりがある地域に問題が起こったときは、ポジティブにどのように皆様に解決していかないといけない問題なのかということが話し合われ、その結果を市役所に問題提起しますが、それができずにおります。もちろん、自分達で解決できそうな問題は、自分達で解決するのが当たり前であります。もし、自分達の力で解決できない大きな問題の場合は、町内会や自治体と意見交換を行ったり、連携しながらその問題を解決していくことを提案します。地域の意見を聴ける町内会を作っていくべきではないでしょうか。福祉の問題を解決していける、支え合っていける地域づくりをすることが大きな課題であると考えております。そして、その力を周りの人が引き出していくことが大切と思っております。

もう一つは、この地域会議に参加するメリット、このキーワードはとても重要で、その地域は

地域共同体として運営していくことに意味があります。そのことを農村型社会と言っています。例え話ですが、田植えを皆でやらなければ生きていけなくなる、その一つのまとまりの中で一人がその作業をしないということがない、もし、作業をしなければ皆が生きていけないからです。それにより、地域がまとまり、皆もまとまります。昔は田植えという共通の財産があり、暗黙のメリットがありましたが、今はそれもなく、それどころか少子高齢化で10年、20年先はどうなっていくのかがわかりません。そのため、日頃から近所の人と顔を突き合わせておくことが非常に重要です。少子高齢化による様々な問題、災害対応等もありますが、税金を払い、市役所に問題解決してもらおうか、地域で問題を持ち出し、助成金を受け取りつつ問題解決していくことは自由であります。できれば、地域で解決できそうな問題は、自分達でやってもらおうというのが理想の形と思います。